

**OPTION INTERNATIONALE DU BACCALAURÉAT**  
**SESSION 2014**

**SECTION : JAPONAISE**

**ÉPREUVE : HISTOIRE-GÉOGRAPHIE**

**DURÉE TOTALE : 4 HEURES**

Le candidat devra traiter l'**UN** des deux sujets de composition  
et faire l'**exercice – étude critique de document(s)**.

*Les dictionnaires sont interdits.*

## HISTOIRE

歴史 小論文

1)

「第二次世界大戦以降、日本と近隣諸国はどのように変化してきたでしょうか。」

## HISTOIRE

歴史 小論文

2)

「1949 以降の中国と世界」

## GÉOGRAPHIE

地理 資料問題

「グローバル化」

資料および自分の知識を利用して、グローバル化した世界の中で、多国籍企業がどのような地理的戦略をとっているか説明しなさい。

## 資料1：グローバリゼーションへのイタリアの慎重な適応

出典：ル・モンド紙記事、2010年8月31日

自動車製造企業フィアット社とイタリア最大の労働組合 CGILとの対立は、紛争の元となったメルフィの工場（バジリカータ地方）で働く3名の労働者の運命などを越えた事態に発展してしまった。イタリア国内の工場の競争力を高める目的で身分を変更されたことに抗議して、彼らは生産ラインを停めてしまい、そのため7月に企業から解雇を言い渡されたのだ。裁判所は彼らに有利な判断を下し、3人はメルフィの生産現場に復帰することを許された。しかしフィアット社はこの判決に抗議し、労働者たちの行動を「サボタージュ」であるとしている。反対にCGILは「労働者の権利の侵害としては1945年以来最大の暴挙」と主張している。

8月26日木曜日の会議で、フィアットの社長セルジオ・マルキオンネはこの状況に対するいらだちを隠さなかった。「まるで60年代に戻ったようだ」と彼が言う時、それは決していい意味で言っているのではない。60年代と比べるのはおげさだが、フィアット社がイタリアの経済的躍進のシンボルであったこの時代、幹部たちは強力な労働組合、いたるところで介入してくる共産党、そしてメルフィの3人の場合よりももっと激しい労働争議などとつきあわなくてはならなかつたのだ（略）。

フィアット社の社長は「世界の中で、フィアットが昨年に引き続き今年も赤字になっている唯一の市場」であるイタリア全土に対していらだっているのだ。フィアットは、生産力を拡大するならば国内工場のために200億ユーロの投資をする用意があると言っているものの、今の時点ではブラジル、ポーランド、セルビアなどで - より安価により良い条件で - より多くの自動車を生産している。イタリア半島は、その社会保障制度にも支えられ、なによりもまず市場であるのだ（同企業が生産する自動車の40%がイタリアで販売されている）。

フィアット社は企業の構造を変えて、グループの事業を2つに分け、2つの会社にしてそれぞれ株式市場に上場している。アメリカのクライスラーとの協定や企業幹部の国際的なプロフィル（マルキオンネはトロント生まれで、会長のジョン・エルカンはニューヨーク生まれである）のおかげで、フィアットとイタリアとの結びつきは少しずつ弱くなってきた。「もしも私たちがグローバルなアプローチをしていなければ、クライスラーと提携したように、アメリカでチャンスをつかむことはできなかつただろう」と、社長は強調する。「私たちが求めているのは、（イタリアの）工場がしっかり機能してくれることだ。世界レベルで機能しているシステムに我々のシステムを合わせていくのは、ちっとも不思議なことではない。」（中略）グローバル化したフィアットは現在、1899年に会社が設立された国をも含め、場所がどこであれ最良の生産条件を探し求めている企業なのだ。

## 資料2 トヨタの場合 - 多国籍自動車会社の世界組織

出典：ローラン・カル、『グローバル化の地図』、アルマン・コラン社、2007年

